

# ことでん瓦町ビルを活性化しよう

## ーサイエンスによる地域貢献ー

代表者 安井 雅紀 (大学院教育学研究科2年)

### 1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、夏休み中にことでん瓦町ビル及びその周辺地域を拠点として、私たち香川大学生及び教員がボランティアで、体験学習の形で、来場の子供達や保護者の方々を対象にサイエンスの普及に貢献し、その活動を通じてことでん瓦町ビルを活性化するというものです。活動は、「夢化学 21 in Kagawa おもしろわくわくサイエンス展」の計画、運営、実施ならびに、ことでん瓦町ビルの活性化のための話し合いです。

### 2. 実施期間(実施日)

平成26年8月16日(土)～平成25年8月17日(日)(イベント実施日)

### 3. 成果の内容及びその分析・評価等

ことでん瓦町ビルは、2014年3月に高松天満屋が閉店し、瓦町ビルに足を運ぶ人が減っています。私たちが子どもの頃から親しんでいることでん瓦町ビルを活性化させようと、このプロジェクトに取り組みました。サイエンス展を2014年度も開催するということが決まってから、ことでん瓦町ビル関係者とのミーティングを実施しました。その際、今回のプロジェクトの目的を説明しました。ことでん担当者から、瓦町ビルは双日グループによるテナント誘致が決まっており、この機会に地元の大学生の意見を伝えることにしました。香川大学の学生のキャンパスライフなど、大学生の生態を紹介し、香川の大学生の意見として、中国・四国にはないファッションブランドのお店のよう、他の商業施設にはない特別に足を運びたくなるような店舗があることや、時間を使うことのできるお洒落なカフェや雑貨店があると良い、などの意見がありました。また、サイエンスイベントの開催に関しては、年一回に大きなイベントを行い、継続したサイエンスイベン

#### フースー覧

1. おもしろ化学実験
2. イオン液体で遊ぼう
3. カラフルな太陽電池を作ってみよう
4. 天然にほとんどない「希少糖」ってどんな糖?
5. 薬剤師体験「お菓子な!?おくすり」
6. DNAに触れてみよう(バナナからのDNA抽出に挑戦)
7. 何でも凍る!? -196℃の世界をのぞいてみよう!
8. 塩水で燃料電池を作ってみよう
9. どっちに進む? しょうのうの舟
10. ミュージック&エコロジー
11. 模型で見る四国の鉄道
12. スライムを作ろう
13. きれいな結晶

トの開催を目的とした、ワークショップ形式の小さなイベントを定期的に行うことなどを伝えることができました。

私たちが実施する「おもしろわくわくサイエンス展」には、1000人以上の人が来場するので、その人を瓦町に呼び込むことを考えました。そこで、工夫として、昨年同様、イベントにスタンプラリーを実施しました。つまり、スタンプラリー用の台紙にスタンプをたくさん貯めたら、景品がもらえるというものです。

また、昨年のイベント開催の経験から、イベントの準備や当日の活動のために学生ボランティアが参加できる時間帯と参加できない時間帯をもとにシフトを作成しました。入れ替えのあるようなシフト形で、できるだけ多くの学生ボランティアを呼び込みました。



企画したスタンプラリー

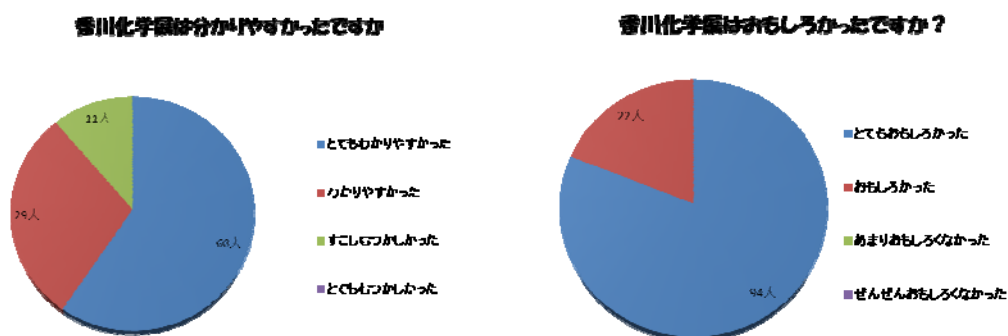
設置したブースは、香川大学で作られ、とても注目されている希少糖のブースや、徳島文理大学の「お菓子な！？お薬」のブース、コラボレーション企業として、今年も株式会社トクヤマにお願いし、カルメラ焼きと燃料電池についてのブースを出しました。どの子供も成功し楽しんでいました。

来場者数は以下の通りです。

	ことでんビル10階(人)		天満屋9階(人)			
	中学生以上	小学生以下	中学生以上		小学生以下	
年度	2014		2012	2013	2012	2013
16日(土)	281	279	220	258	484	220
17日(日)	242	230	323	365	315	323
合計	523	509	543	623	802	543
	合計 1,032人		12合計 1,166人		13合計 1,469人	

今回、昨年と違い、オープンスペースでなく、また、天満屋の撤退により、10階の人通りは激減しており、チラシのみの配布でどのくらい集客が見込めるか心配されましたが、2012年度の実施とほぼ同程度の実施となりました。一日500人程度の参加者は、固定数として見ていいと思われます。

アンケートの結果を以下に示します。



面白さや分かりやすさは、どちらも肯定的な意見が大多数を占めていることがわかりました。

#### 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

今年の10月にことடன்瓦町ビルがリニューアルオープンします。地元の大学生として意見を伝える活動ができました。新しいビルのコンセプトに私たちの意見がどのくらい取り入れられているか、楽しみにしています。サイエンスイベントの開催は、新しくできる瓦町ビルの市民生活や文化活動を充実させるというコンセプトと合致しており、サイエンスイベントを開催できる場として適切であると思います。

また、今回、天満屋が退去し、集客が望めない中でも、二日間で1000人以上の人が足を運んでくれました。このことは、「おもしろわくわくサイエンス展」が、地域の行事として定着しつつあるということを表していると思います。訪れた児童生徒は、体験したことや学んだことを、夏休みの自由研究に活かしたいという子が多く見られ、サイエンスイベントでのことを学校で活かすことができるということが分かりました。アンケートの自由記述欄には、ボランティアの学生たちがとても親切に良くしてくれたという意見もみられ、香川大学の学生として有意義な活動ができていると感じることができました。

#### 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

昨年の活動を経験した学生たちを中心に、ボランティアの学生は、よりよい行事にしたいという思いで今回のプロジェクトに参加しました。児童生徒に分かりやすく伝えられる教材の準備や、会場が明るくなるように飾りつけを作成しました。実際に子どもたちと接して、楽しかった、いい経験になったなど前向きな意見が多くありました。来年度も参加したいという学生ボランティアも多く見られました。



イオン液体で遊ぼうのブース



当日参加したメンバー

## 6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

イベント終了後には反省会を実施し、アンケートの集計を行いました。実際に足を運んでくださった方の意見は、概ね好評で、デパートがない状況でも一定数の集客が得られたことから、「おもしろわくわくサイエンス展」が地域の行事として定着してきていることが分かりました。今まで取り組んできた成果であると考えています。

また、今回、大学生の生の意見をビル開発に携わる人々に話す機会が持て、地域活性化のコンセプトを説明していただき、私たちの新たな活動のヒントがそこから得られたと思います。課題としては、毎年、予算・人材を確保するのに労力がかかるため、継続的なイベントを開催するための工夫を行っていく必要があるということです。

最後に、この活動を通して、より多くの子どもたちにサイエンスに触れる体験をしてもらい、科学に興味を持ってもらいたいと感じました。そして、サイエンスイベントが地域の活性化につながるような活動になればいいと願っています。来年度の実施担当者には、このようなイベントを継続し、地域のニーズにあった新たな活動を取り込むことで、より実りあるサイエンスイベントを運営してもらいたいと思います。

## 7. 実施メンバー

代表者 安井 雅紀（教育学部M2年）

構成員 福井 信夫（教育学部M1年）

西田 理紗（教育学部3年）

駒田 雄也（教育学部3年）